

第69回神奈川県教職員スポーツ大会 【球技の部】開催



第六九回神奈川県教職員スポーツ大会（球技の部）が一月一九日・二三日の二日間、県内五会場において開催され、選手・運営委員の教職員六七八人が参加しました。

今回は天候の影響で一月一九日に屋外で開催予定だったソフトテニスが残念ながら中止となりましたが、その他の四種目（バレーボール・卓球・バスケットボール・サッカー）は実施することができました。

選手のみならずは日頃の成果を発揮し、ハイレベルなプレーもみられ、熱戦が繰り広げられました。選手同士の声かけや応援の声で、どの会場も盛り上がりを見せていました。

地区や校種を越えて選手や応援の方が交流や親睦を深め、和気あいあいの中で活気あふれる有意義な厚生活動となりました。種目ごとの対戦結果は別表の通りです。

大会の開催にあたっては、各地区教組ならびに運営委員のみなさんに、会場の手配や出場選手の募集などの準備から、大会当日の運営まで、大変ご尽力いただきました。当日は円滑に、安全面にも配慮し、すすめていただいたことに、感謝申し上げます。

今後も、教職員スポーツ大会の活性化や厚生活動の意義・あり方については、実行委員会・運営委員会等を通して協議を深め、教職員が参加しやすく、楽しめる大会をめざしていきます。

次年度（二〇一七年度）は、陸上競技の部が開催される予定です。



バスケットボール（男子）



バスケットボール（女子）



バレーボール（女子）



卓球（女子）



バレーボール（男子）



卓球（男子）

第69回神奈川県教職員スポーツ大会 試合結果

2016年11月19日・23日

種目	バレーボール			卓球		バスケットボール		サッカー	ソフトテニス
	男子 35歳未満	男子 35歳以上	女子	男子	女子	男子	女子		
優勝	横浜	横浜	湘北	横浜(A)	横浜	中	横浜	湘南(B)	雨天中止
準優勝	中	湘南	中	湘南	三浦	横浜(A)	湘南	横浜(A)	
3位	川崎 湘北	中	横浜(北)	湘北	—	三浦	西湘(B)	西湘(A)	
4位	—	—	川崎	川崎	—	湘南	川崎 中	横浜(B)	
5位	湘南 西湘(A) 西湘(B)	—	横浜(南) 湘南 西湘	中	—	横浜(B)	西湘(A)	川崎 湘南(A) 湘北	
6位	—	—	—	横浜(B)	—	川崎 西湘	—	中(A) 中(B)	
7位	—	—	—	西湘	—	—	—	西湘(B)	

参加人数 678人(役員含む)



サッカー

横浜市西区藤棚町 2-197

神奈川県教職員組合
発行人 芹沢 秀行
編集責任 白井 千浪



<http://www.ktu.or.jp>

No.714

2016. 12. 20

第69回
神奈川県教職員
スポーツ大会開催
青年教職員学習会
活躍するかな政連
ちよっと拜見地区教組

2016年度神教組青年教職員学習会

青年教職員を対象に「2016年度神教組青年教職員学習会」を開催いたします。今年度はフィールドワークとして「横須賀 猿島・横須賀軍港めぐり」を予定しています。県内にある戦跡等を訪れ、学習を深めることで、身近なところから平和教育について考えるきっかけを作ること、青年層教職員の地区を超えた交流をはかることを目的としています。青年層の教職員のみなさん、お誘い合わせの上、たくさんの方のご参加をお待ちしています。

日時：2017年1月28日（土）10：00～16：00
 場所：横須賀市内
 内容：猿島フィールドワーク・横須賀軍港めぐり
 講師：小原慎一さん
 （神奈川県平和運動センター事務局長）

※申し込み方法は、各地区教組へお問い合わせください。



主催：（一財）神奈川県教育会館 （一財）神奈川県教育福祉振興会

はばたけ子どもたち 夢・未来コンサート

音楽の楽しさや、オーケストラのすばらしさを
親子・家族で体験していただくことを目的としています。

神奈川フィルハーモニー管弦楽団による演奏

皆で歌おうコーナーでは、「となりのトトロ～さんぽ～」を予定しています。
 楽器紹介・指揮者体験コーナーなども予定しています。お楽しみに！

♪ 日時 2017年2月19日（日）
 午後1時と午後3時の2回 *入替制
 ♪ 会場 神奈川県立音楽堂（西区紅葉ヶ丘）
 ♪ 募集人数 各回親子1000名
 （子どもの年齢は問いません、乳幼児可）

*このコンサートはどなたでもご参加いただけます。

♪ 参加費 無料（申込者多数のときは、抽選。）
 ♪ 申込方法 1月31日までに、住所・氏名・電話番号・参加人数（大人子ども別）・希望時間（1時・3時・どちらでも可）を記入し下記へFAXでお申込みください。
 当選者には2月6日頃「座席引換券」をご自宅へ郵送いたします。尚、落選の連絡はいたしません。

申込み・問合せは、神奈川県教育会館へ

申込み FAX 045-251-3181

問合せ TEL 045-241-3536

日教組 障教ネット通信 No.2

☆那谷屋参議院議員（日政連）と運営委員の意見交換を行いました。
 10月22日、「障害のある教職員ネットワーク」運営委員となたにや参議院議員とで、4月から施行された改正障害者雇用促進法に明記してある「合理的配慮」の実施状況と課題について、意見交換を行いました。

運営委員からは、合理的配慮指針にも示されている「出退勤時刻・休暇・休憩に関し、通院・体調に配慮すること」の文言から、障害者が通院するための休暇の創設について、また手すりやスロープ等を含めた施設のバリアフリー化がすすんでいない現状が地方ではあることなど、8月に行った文科省要請にもとづいた意見を伝えました。

これに対して、なたにや議員からは「合理的配慮指針にもとづいた配慮が当然なされるべきである。また、関係省庁や他の議員、日教組と連携して法律が実効性のあるようにしっかりとりとくみをすすめていく。また、学校での状況をしっかりと把握するために、他の議員にも働きかけて、運営委員の方々の職場での状況を、ぜひとも視察に伺いたい」などと述べました。
 これからも日教組は、教職員への障害者雇用を促進させ、障害者が安心して働き続けることができる条件整備のために、関係省庁や関係団体、議員等と連携してとりくみます。



日教組 障教ネット通信 No.3

☆第3回障害のある教職員ネットワーク全国集会を開催しました！
 11月12日～13日、第3回障害のある教職員ネットワークの全国集会を戸山サンライズで開催しました。参加人数も昨年より増え、25人となりました。

開会行事後の講演会では、講師に尾上浩二さん（DPI日本会議副議長）をお招きし、「障害者差別解消法と共生社会」と題した講演をいただきました。4月から施行された障害者差別解消法、改正障害者雇用促進法に明記している合理的配慮についての詳しい説明がありました。参加者からは「職場での合理的配慮はまだ広がっていない。法律ができたので、浸透させていくととりくみが今後も必要」などの意見がありました。

2日目、2つのグループにわかれて分散会を行いました。職場での様子や困っていること合理的配慮のことなど情報交換をし、参加者にとって有意義な会となりました。これからも日教組は、障教ネットの輪を広げ、活動を充実させていきます。障害のある教職員が働きやすい職場は誰にとっても働きやすい職場となり、すべての子どもたちが生活しやすい学校となります。これからもとるとりくんでいきましょう。



活躍するかな政連

組織出身議員の活動報告

神奈川県議会議員

(横浜南区)

きしべ 都



「力いっぱい活動中」
今年度のとりくみから

神教組に結集する仲間のみならず、こんには、横浜選出のきしべ都です。日頃のご支援ありがとうございます。二期目の二年目力いっぱい活動中です。

今年一度目の厚生常任委員会に所属し、保健・福



また、今年度は教育・スポーツ振興対策特別委員会の委員長となり、高校入試選抜の採点誤りの問題、主権者教育、県立高校改革、いじめ・暴力・不登校等への対

策、インクルーシブ教育の推進、二〇二〇オリパラに

おいてなど常任委員会よりさ

らに課題を絞った議論をして

ています。すべての施策や

事業が横ならびではない、

優先的にとりかへばきもの

があることをふまえた具体的

な検討になるよう、とり

くんでいるところです。

これからも現場で奮闘さ

れているみなさんとしっか

り連携して議会の場でとり

くんでまいります。



相模原市議会議員

(中央区)

江成 直士



「民主教育の理念・現場の

声を武器に切り込む」

今年度は議員活動一〇年目を迎え、総務常任委員会、交通・防災の二特別委員会に所属しています。総務委員会は、条例改正などの議案も多く、職員定数や勤務条件など、教育現場・教組運動の経験・知識を活かして、とりかへばきです。また、湘北教組ともしっかり連携して、学校現場の声を反映に努めています。特に、二〇一七年度から教職員の給与負担・定数決定権限が

相模原市に移譲されることから、給与・諸権利の確保にむけ、現場要求の実現を側面支援し、一定の成果を上げることができました。また新しい教育委員会制度に移行することから、教育行政に市民の多様な声がかさねられるよう、教育委員の一名増員も実現しました。子どもの貧困や学校と教職員の多忙化の課題にも切り込んで、問題解決の方途を提起しています。これらの議論には、民主教育の理念・教育現場の声を武器に、論点を打ち出しました。相模原市は今、政令市移行から七年目を迎えます。さまざまな行政課題を抱えています。また、さかみ縦貫道の

横浜市議会議員(泉区)

ふもと 理恵



「子ども」が真ん中

日々より、学校現場での熱心な活躍に心から敬意を表します。

学校の抱える課題が複雑化・多様化している状況で、貧困問題への対応や保護者からの要望への対応など、学校に求められる役割は拡大し、学校や教職員だけでは解決できない課題が増大しています。

そんな中、横浜市では原発避難生徒いじめの問題が発生してしまいました。一年七ヶ月たつてようやく「重大事態」と認識され、横浜市いじめ問題専門委員会での調査が開始されました。

小田原市議会議員

安藤 孝雄



現場からの教育改革の実現を

全国的な城ブームや小田原城リニューアルオープンもあって、最近、小田原のことをテレビで取り上げられることが多くなり、観光客が大変自立立つようになり、心配していた箱根大涌谷の警戒レベルも下が

り、地域全体が元を取り戻してきていることを実感しています。市民の関心は、低迷している市民ホールは、迷走している市民ホールの整備事業と一〇月から始まった南足柄市との二市協議会の行方が集まっています。前者は、芸術文化創

その報告書では「この間の対応は教育の放棄に等しい」「猛省を促す」と大変厳しく指摘しました。子どもに関わるすべての人が、この問題を自分のこととして、とらえて考えなければならぬと思います。また、背景には教職員の多忙化が遠因としてあるのではないのでしょうか。学校現場の業務の適正化にむけては文科省も動き出しました。学校教育の質の向上をはかっていくためには一人ひとりの児童生徒と向き合う時間を確保することも、指導力を磨き、チーム力が発揮できる環境整備をしていく必要があります。現場の声をしっかりとあげていくことが何より必要です。私は五月から地域の方と一緒に「満福いずみ食堂」

この報告書では「この間の対応は教育の放棄に等しい」「猛省を促す」と大変厳しく指摘しました。子どもに関わるすべての人が、この問題を自分のこととして、とらえて考えなければならぬと思います。また、背景には教職員の多忙化が遠因としてあるのではないのでしょうか。学校現場の業務の適正化にむけては文科省も動き出しました。学校教育の質の向上をはかっていくためには一人ひとりの児童生徒と向き合う時間を確保することも、指導力を磨き、チーム力が発揮できる環境整備をしていく必要があります。現場の声をしっかりとあげていくことが何より必要です。私は五月から地域の方と一緒に「満福いずみ食堂」

(いわゆる子ども食堂)をスタートしました。月に二回ですが、高齢者や小学生が友達や家族と食事をしに寄ってくださいます。子どもを真ん中にして、学校で地域でつながっていきます。



あんしん共済
教職員共済

http://www.kyousyokuin.or.jp/

入って安心!

総合共済のご案内です♪

おすすめのポイントは...

- 1 業務中に発生した賠償責任を最高3,000万円まで補償(教職員賠償責任補償)
- 2 日常生活で発生した法律上の賠償責任も最高3,000万円まで補償(個人賠償責任補償)
- 3 地震が原因の住宅の損害も最高100万円まで補償(東日本大震災でも共済金をお支払いしました)

少しの負担で助け合い 月掛金900円で12の保障!

- | | | | | | |
|---------|--------|---------|----------------|---------|-------|
| 1 教職員賠償 | 2 個人賠償 | 3 住宅災害等 | 4 災害見舞 | 5 火災等 | 6 死亡 |
| 7 後遺障害 | 8 傷害 | 9 入院・休業 | 10 介護(介護給付による) | 11 遺失救助 | 12 退職 |



※この共済は、教職員共済の「総合共済」と、損保ジャパン日本興亜の「傷害総合保険」「業務過誤賠償責任保険」を組み合わせたもので、月掛金900円のうち、170円は損保ジャパン日本興亜の保険料です。 ※ご加入にあたっては必ずパンフレットおよび重要事項等説明書(契約概要・注意喚起情報)をご覧ください。 制度内容をご確認ください。

承11-企-59(1202)

ご不明な点がございましたら、お気軽にお問い合わせください

厚生労働省認可
教職員共済生活協同組合 神奈川事業所
〒220-0053 横浜市西区藤棚町2-197 神奈川教育会館内

TEL 045-242-6660
FAX 045-242-3881

ちょっと拝見地区教組

湘南教職員組合

平和を切に願う

日本は過去に、長年戦争を続けてきました。敗戦後、今日に至る七一年間戦争をしなかつた国です。この極端に対称的な国の姿勢には、私たちの戦争に対する大きな反省と平和への強い決意や努力があったことを忘れてはいけません。

私たち湘南教組は「教え子」を再び戦場に送るな」というスローガンのもと、平和を守る取り組みを行っています。

○平和教育

湘南教組では、毎年七月を「平和教育月間」とし、各分会で積極的に平和に関する授業を行います。分会員からは、戦争未体験なので指導の難しさを感じるという声もありましたが、「子どもたちが真剣に命の尊さを考える姿があった」という感想もありました。実践したからこそ、感じる平和教育の大切さが、分会員に浸透するようになりました。

また平和学習のための資料教材として、「教文研ライブラリー」を充実させており、たくさんビデオやDVDを取り揃え、無料貸し出しも行い、組合員からはとても好評です。

○沖縄スタディーツアー

八月に、採用五年目までに拡大し、組合員を対象にした沖縄スタディーツアーを二泊三日で行いました。ひめゆりの塔・平和祈念公園・糸数壕などを見学して、学習会を行い、参加者からは「百聞は一見にしかずで、尊い命が奪われた戦争について深く学び、考えさせられた」と有意義な平和学習が沖縄の地で行うことができた。



○「戦場ぬしめ」上映会

三上智恵監督による沖縄の基地問題についてのドキュメンタリー映画の上映会を行いました。

いました。組合員の他にも、遠方から来られる熱心な方もおり、多くの方と平和を考える機会となりました。映画の中では、沖縄県民のみならず、署名を集め、選挙に力を入れたり、基地移設反対運動をしたりと、涙を流しながら、熱い思いをもって、自らの平和を築こうとする姿がありました。

沖縄に次ぐ基地県である神奈川県に住む私たちが、沖縄で何が起こっているのかを知ることで、一人ひとりが主権者として何をすべきか、また平和で安全安心な市民生活を求める取り組みの重要性を再確認し、そして民主主義とは何かを改めて考えさせられる場となりました。

被災地では、未だに復旧がすすまず、生活が制限されている現状があります。湘南教組は被災者に寄り添い、風化させない取り組みとして、組合員によるボランティア活動を続けています。今年も南相馬市で家の除草や水路の清掃など、家主やボランティアの方々と一緒に作業しました。



○福島現状

また、分会ごとにカンパも集め、福島県教組を通して、震災遺児基金に寄付させていただきました。また、七月には「福島の子ども達を湘南に呼ぼう」に参加し、南相馬市から二〇人を超える小中学生とその家族の方々と湘南に引き、ヨット体験や地引き網体験をして楽しいひとときを湘南の地で過ごしてもらいました。組合員をはじめ、地元の高中生や大学生も参加し、海水浴やスイカ割りなどで楽しむ子どもたちの笑顔が印象的でした。湘南教組は引き続き、被災地支援の活動に積極的に取り組んでいきます。



組織の強化と拡大をめざして

湘南教組は青年層の組織拡大と強化をねらい、学習会やさまざまな活動を通して組合に対する理解を深めてもらっています。

○第一回青年委員会

各分会一人の青年委員が参加し、今年は政治を身近に感じてもらうと、執行委員が考えた「政治ゲーム」を行いました。六人グループでそれぞれ市長や住民になりきり、それぞれの立場を考え、解決方法を決めていきます。大変盛り上がり、青年委員同士も仲良く関わり合う姿が見られ、大変有意義な会になりました。



○秋の紅葉トレッキング

十一月に箱根方面にある、金時山へトレッキングに行きました。秋の紅葉と青い空にはさまれて、参加した組合員たちからも大変好評でした。長く続く道のりで、楽しい会話が続き、楽しく過ごし、地域を越えた交流ができました。



若い世代の方は、組合に入るメリット、デメリットを、つい考えがちです。しかし、組合で今行っている活動は、私たちにすぐ還元されるものだけではなく、二〇年後、三〇年後の未来の世代の人々が、安心して生活できるようにするための礎になることをイメージしなくてはなりません。湘南教組ではこれからも組織拡大に取り組んでいきます。

中地区教職員組合

日常的な教育研究活動の構築を！

「実践学習会」

世代交代が急激にすすむ学校現場において、これまで培ってきた現場からの技術の伝承・継承が難しいほど日々の多忙化がすすんでいる中、それでも毎日現場で「子どもたちのために」と懸命にとりくんでいる教職員がいます。そんな中、組合員の方からも「本来大切にされるべき一人ひとりの子どもたちについて語り合う時間がなくなってきた」「教科書・教材研究の時間のゆとりが感じられない」との声が多く聞かれました。

そこで、中教組では、教文研事業として、月一回のペースで「実践学習会」を企画しています。運営には「研究委員」として組合員の方に関わってもらい、より現場のニーズに合ったものをテーマとして掲げました。その時々でニーズにあった講師を招き、学習するだけでなく、講師への質問を通して、各分会への情報交換を行いながら研修・研鑽ができる場として実施しています。

第一回目は、言語聴覚士・臨床心理士の方を講師に迎え「教職員の声が防壁を！子どもたちへの話し方から」をテーマに学習会を開催しました。年度はじめの忙しい時期にもかかわらず、五〇人近い参加があり、現場の高いニーズを感じました。また、参加者からは「生徒の興味関心を引いたり、心をつかんだりするような効果的



な話し方について新たな発見があった。明日からの生徒への語り方をどのようにしていくか考える材料になった」「常に声に悩んでいるので、声帯やのどの仕組み、発生のメカニズムから声の防止の方法を学べて、とても勉強になった」「専門的な内容だったが、とてもわかりやすく、面白かったです。自分の声や体をいとおしむところが、すべてにおける原点なのかなと改めて思いました」などの感想をいただきました。

第二回以降は、金子みすゞと詩の授業、国語教育の中の詩の授業、子どもたちに届く話し方、教職員のためのボイストレーニング、ユニバーサルデザインの授業づくりⅡ、聴写テストなどからの子どものアセスメント、理科おもしろ実験教室、アクティブラーニングを取り入れた授業法、

●これからの鑑賞教育のあり方
「アウトリーチの効果的な活用を通して」をお招きし、学習会を行いました。
夏には「実践学習会フィールドワーク編」として金子みすゞさんのゆかりの地である山口県長門市と下関市に赴きました。美しい郷土と自然を訪ね、みすゞさんの素晴らしい詩の原点に触れることができたフィールドワークとなりました。

さらに、中地区教育フェスティバルの全体会では、金子みすゞ記念館の館長であり、みすゞさんの詩を発掘した本人でもある矢崎節夫さんを講師にお迎えし、「みんなちがってみんないい」金子みすゞさんのうれしいまなざし」と題し講演をいただきました。参加者からは、「子どもたちに寄り添った温かな眼差しや言葉がよかったです。立ち位置を変えて考えてみるとより多くの喜びや意味があることを知ることができた」

「相手を思う大切さ、言葉で伝える大切さに改めて気づかされた講演会でした」などの感想をいただきました。

子どもたちが生き生きと笑顔で生活することが、教職員の喜びです。その表情を引き出したいと思えば、自分も成長しようと思えるはずです。

今後も中教組では、子どもたちのために「実践学習会」を始めとした、小学校、中学校の枠を超えた教育研究活動の構築を大切にしていきたいと考えています。

